

基本目標 1

- ◆ 指標について下げる目標については、「～以下」とした方がよいのではないか。

本来ゼロであるべき指標については、「～以下」としました。

基本目標 2

2-1 地域福祉の推進（P 13）

- ◆ 民生委員・児童委員はすでに定員に達しておらず、今後、定年で多くの人が辞める予定であるため、いっそう不足することが見込まれる。

計画書では、素案で示した取組の中で対応していくものとします。

なお、現状を踏まえ、民生委員補助員の設置を検討しており、不足する民生委員の活動をサポートするとともに、担い手候補を増やしていきます。

基本目標 3

3-3 魅力ある学校づくり（P 35）

- ◆ 給食を活用した食育について、「白樺派のカレー」を給食のメニューとして白樺派の文人など我孫子の歴史文化を伝えるきっかけにしてはどうか。

総合計画では、詳細な内容は記載せず「主な取組」の見出し「確かな学力の定着と体力の向上」の4つ目「子どもたちの健やかな成長のために給食が生きた教材となるよう、食育に取り組むとともに、地元の農産物を使った給食を提供し、生産者への感謝の気持ちと郷土愛を育みます。」を基に取り組んでいきます。

基本目標 4

4-1 企業立地の推進（P 41）

- ◆ 指標の「創出した産業用地で働く市民の数」の目標値について「50人」は少ないのではないか。根拠を示して欲しい。

現在進めている柴崎の工業用地について、計画期間中に整備が完了するものと想定して設定しました。国が行った「工場立地動向調査」に基づくと、75～85人の雇用が想定され、そのうちの市民ということを鑑み、50人として設定しています。

4-2 就労支援の充実（P43）

◆ 移住・定住にもつながる分野として、さらに推進していく必要があるのではないか。

「4-1 企業立地の推進」の「現状と課題」に「生活しやすいと感じる主な理由のひとつに勤務先が近いことが挙げられています。永く住み続けるために、住む場所の近くに雇用の場があることが求められています。」を追記し、就労の前の段階の「雇用の創出」について、移住・定住につなげる視点を入れました。

4-3 商工業の振興（P45）

◆ 令和9年度までの計画として、先を見通してもう少し踏み込んだ内容にできないか

「主な取組」の1つ目「地域に根差した事業者の経営の安定や事業の発展のため、中小企業に対して資金の貸付けや利子補給など社会状況の変化や経営状況に合わせた支援を行います。」「社会状況の変化や経営状況に合わせた」を追記しました。

4-4 農業の振興（P48）

◆ 付加価値を高める取組として、イベントの活用が抜けているのではないか。

「主な取組」の3つ目「地元農産物の付加価値を高めるため、生産者、大学、商工業者、NPOなどの関係者と協力しながら、農業拠点施設を軸とした新たな加工品の開発やブランド化、市内外のイベントでのPRに取り組みます。」「市内外のイベントでのPR」を追記しました。

基本目標5

5-2 住環境の保全とまちなみの魅力向上（P56）

◆ 「まちなみづくり」とした理由があるのか。意図的なものでなければ「まちづくり」などに変更した方が良い。

「まちなみの形成」という表現に変更しました。

- ◆我孫子市は東西に長く、地域により状況が異なることから、「地域性」を考慮した景観づくりが必要ではないか。

「地域資源」には、全市的な視点で見た地域資源の活用と地区別の視点で見た地域資源の活用の両方を包含しています。現在策定中の次期都市計画マスタープランで、地域性、地域の特徴や強みを活かした景観形成について示していきます。

5 – 5 利用したくなる公園の整備（P 6 3）

- ◆市民手づくり公園をしっかりと進めてもらいたい。都市公園が222か所あるのに対し、手づくり公園の数が少ないのではないか。目標値も2か所増えるだけでいいのか。

これまで、積極的な取り組みをしていませんでしたが、今後はしっかりと推進し、手づくり公園の数を増やしていくよう、目標値を修正しました。

基本目標 6

6 – 1 地球環境の保全（P 7 0）

- ◆「ゼロカーボンシティ」を実現するための取組として、CO₂の排出を抑えることは記載されているが、緑を増やすなどCO₂を吸収する取組が記載されていない。

「主な取組」の1つ目「ゼロカーボンシティの実現に向け、市域全体の温室効果ガス排出量と吸収量を的確に把握し、取組を推進していきます。」と「吸収量」について追記し、具体的な内容は、環境基本計画や実施計画で示します。

※現在は、「ゼロカーボン」と同じ意味を表す「カーボンニュートラル」が一般的となっていることから、令和2年に本市が表明した「ゼロカーボンシティ宣言」については残し、取組などの部分については、「カーボンニュートラル」に修正しました。

6-2 自然環境の保全 (P 72)

- ◆ 指標となっている手賀沼の COD 値について、わかりやすく目安を示すことを検討中とのことだが、総合計画に記載する必要があるのか。環境基本計画で示してもいいのではないか。

詳細な内容については個別計画で示すこととしており、検討の結果、COD 値についても数値が示す状態などは環境基本計画で示すことを検討しています。なお、COD について注釈を追記しました。

基本目標 7

7-3 スポーツの振興 (P 86)

- ◆ まち・ひと・しごと創生有識者会議でも同様の指摘があるが、指標のスポーツイベントの参加者数は天候に大きく左右されるため、数値だけでは評価が難しい部分がある。代わりとなる指標についてアイデアがあれば伝えていきたい。

天候などを理由に達成されない指標については、影響を受けない年度の数値などから傾向を読み取り評価をしていきたいと考えています。より適切な指標がないか、次期計画への掲載に向けて引き続き検討していきます。

- ◆ 障害者スポーツへの取り組みを記載した方がいいのではないか。

「主な取組」の 3 つ目「障害の有無や年齢にかかわらず誰もがスポーツに親しめるよう、スポーツ関係団体などと連携し、スポーツの普及活動に取り組みます。」と修正し、障害者スポーツへの取り組みを含めました。

- ◆ カヌーなど新たなスポーツの振興について記載できないか。スポーツイベントを交流人口につなげる視点で、市外からの参加者を指標としてはどうか。

「4-5 交流・関係人口の拡大 (P 50) において、「主な取組」の 8 つ目「多くの人々が訪れ、市の魅力を知ってもらえるよう、手賀沼とその周辺でのスポーツイベントの開催やアウトドアアクティビティの普及を推進します。」を追記しました。また、指標に「市外からの手賀沼エコマラソン参加者数」と「市外からの手賀沼チームラン・キッズランうなぎちカップ参加者数」を追加しました。

基本目標 8

8 - 2 人権尊重社会の推進 (P 9 1)

◆「現状と課題」では「自殺に至る原因」である「いじめ」についても、「家庭、地域、学校、職場、専門機関などと連携し、対応する必要があります。」とある。児童相談所や家庭の問題が取り沙汰されている中で、どのように連携していくのか。

子どもに対する虐待、いじめについては、「3 - 1 妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援」の「主な取組」の6つ目「虐待、育児、不登校、非行、いじめ、健康、障害、教育など子どもに関するあらゆる相談に対して、児童相談所、学校、警察などの関係機関との連携を強化し、適切に対応できる体制の充実を図ります。」の中で対応していきます。なお、児童相談所、保健所、警察署、学校、保育園、医師会、歯科医師会や弁護士、精神科医などさまざまな機関の専門家による「子ども虐待等防止対策地域協議会代表者会議」を開催し連携を図っています。